

(様式2)

管理運営状況等の評価シート(令和7年度分)

施設所管課

健康福祉課

1 指定管理者施設概要

施設名	名 称	上三川町こども発達支援センターおひさまの家															
	所在地	上三川町大字上蒲生2108番地															
指定管理者	名 称	社会福祉法人こぶしの会															
	代表者名	理事長 藤田 勝春															
	住 所	栃木県宇都宮市柳田町1401番地															
指 定 期 間		令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日															

2 利用実績等

(1) 利用実績

① 契約者数(※)

(単位:人)

区分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度 平均	3月末契約者数 町内	町外
児童発達支援	10	13	13	14	14	14	15	17	18	19	19	21	21	16.5	22.5	21	0
放課後等デイサービス	10	25	29	28	26	30	29	29	29	29	29	28	29	28.3	24.5	29	0
保育所等訪問支援	—	9	8	8	3	0	9	6	6	2	5	3	1	5	4.0	21	0
日中一時支援事業	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
合計	30	47	50	50	43	44	53	52	53	50	53	52	51	49.8	51.0	71	0

※ 契約者のうち、月に1回以上サービスを利用した者の数

② 利用件数(日数)

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年度合計
児童発達支援	57	71	85	104	79	85	89	78	105	90	85	110	1,038	1,235
放課後等デイサービス	192	198	199	201	171	191	192	153	193	176	160	188	2,214	1,790
保育所等訪問支援	9	8	8	3	0	9	6	6	2	7	3	1	62	43
日中一時支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	258	277	292	308	250	285	287	237	300	273	248	299	3,314	3,068

③ 開館日数

(単位:日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度 計
令和7年度	22	22	22	22	20	22	23	20	22	21	20	22	258	260
備考	開館日数: 258 日													

(2) サービス改善の状況

利用者及び保護者のニーズに応じたサービス提供に努め、個別療育については既存の設定時間にとらわれず、可能な限り希望する時間帯での実施ができるよう柔軟な調整を行った。また、保護者の就労等の事情により送迎が困難であることを理由として必要な支援の利用機会が失われることのないよう、送迎サービスの提供に努め、適切な時期にサービス利用を開始できるよう支援した。また、おもちゃ、遊具、食器等の消毒を継続的に実施したり、施設内の清掃を毎日行い、安全で快適な環境の維持に努めた。支援の質の向上に向けては、朝礼時に活動内容や活動の目的について職員間で共有し、支援方針の統一と共通理解の促進を図った。

3 管理運営状況

(※項目、評価内容は施設の状況等に応じ修正することとする)

項目 評価内容			指定管理者		施設所管課	
			自己評価	評価意見	評価	評価意見
(1) 基本運営の考え方	1	施設利用者の安全確保に関すること	B	活動中に児童2名が不意の動きにより顔と頭がぶつかってしまった。事故検証を実施し、支援方法の見直しと緊急時の役割分担の再確認を行った。	A	予測できない行動により、事故が発生してしまったが、その後事故を起こした児童の個別支援や職員の対応を見直し事故防止に努めている。
	2	施設の効率的・弾力的運営に関すること	A	個別療育の時間帯を可能な限り保護者のニーズに対応し既存の設定時刻以外でも可能な限り対応をすることができた。	A	
	3	就労及び生産活動の拡大に関すること				
	4	利用者工賃の向上に関すること				
	5	利用者の福祉の増進に関すること	A	転居した児童に対し、転居先での幼稚園や福祉サービス事業所への情報提供を行ったり、就学先、就職先へ情報提供を行い、切れ目ない支援を意識した。	A	
(2) 施設・設備の維持管理	6	建物・設備等の保守点検に関すること	A	定期的な点検を行っている。	A	
	7	備品の管理に関すること	A	月1回備品台帳の確認をしている。	A	
	8	清掃及び樹木剪定業務に関すること	A	除草作業、剪定作業を職員が行っている。清掃については毎日実施している。	A	
	9	警備業務に関すること	A	機械警備を行っている。	A	
	10	廃棄物(ごみ)の減量等処理に関すること	A	業者による定期収集を実施。	A	
	11	厨房・浴室等衛生管理業務に関すること	A	消毒液を使用しおもちゃ、遊具、食器等の消毒を行っている。	A	
	12	公共料金の支払いに関すること	A	滞りなく収めている。	A	

(3) 利用者サービス 向上の取組み	13	利用者の実績に関すること	A	利用毎に保護者にサインを頂き、確認をいただいている。	A	
	14	利用しやすい受付案内の実施に関すること	A	利用希望の方にはパンフレットを基に、活動内容の説明を児童発達管理責任者を中心に行い、希望に応じて活動の体験を実施した。	A	
	15	適切な利用情報の提供(広報・PR)に関すること	B	ホームページの更新を月1回程度行い、活動の様子を掲載した。今後もプライバシーに配慮しながら続けていきたい。	B	令和6年度より課題となっていたHPの更新頻度を月1回から改善できなかった。また、イベント等の情報を迅速にPRすることができなかった。
	16	サービス水準の確保に関すること	A	朝礼時に、活動内容の共有を行い、活動の目的について共通理解を深めた。また、活動の準備物について共有し、児発や放デイ間での効率的な用具の共有を意識した。	A	
	17	個人情報の保護に関すること	A	児童や施設内の写真掲載については利用開始時に保護者に確認を行っている。個別ファイルについては鍵付きの棚で保管している。	A	
	18	利用者の意見を把握する仕組みの構築に関すること	A	評価表の記入をご協力いただき、ホームページに公表した。保護者との毎日のやり取りの中でのご意見等は朝礼で共有している。	A	
	19	業務仕様書に掲載した事業の実施に関すること	A	実施できている。	A	
	20	その他運営上必要な業務に関すること	A	必要に応じて他機関との会議の開催や、情報共有を行った。	A	

(4) 職員・管理体制	21	関係法令等の遵守に関すること	A	遵守している。	A	
	22	仕様書に規定された職員の配置に関すること	A	配置できている。	A	
	23	利用料金の徴収に関すること	A	口座振替をお願いしている。	B	現入所者については未納無く実施できている。 退所者の未納金について、定期的に催促するように求めたが実施できていない。
	24	危機管理体制の構築に関すること	A	紙芝居や動画等を活用し、児童に分かりやすい方法で防災教育を行った。法定研修について、年度初めに開催月を確定し周知徹底することで、計画的な実施を維持し、未実施の防止につなげた。	A	
	25	事業報告書等の提出に関すること	A	遅滞なく提出した。	A	
	26	職員の研修に関すること	A	法人内での共通書籍を活用し、支援の原則の理解を深めた。外部研修を活用し、全職員が研修を受けられるようにした。	A	
(5) 収支状況	27	指定管理料の執行状況に関すること	A	適切に執行している。	A	
	28	①適切な経理書類の作成	A	法人事務センターで作成している。	A	
	29	②経理を担当する従事者の配置	A	法人事務センターに配置している。	A	
	30	③伝票、通帳、印鑑等の適切な管理	A	法人事務センターで管理している。	A	
	31	収入及び支出額(収支決算の状況)に関すること	A	法人事務センターで実施している。	A	
	32	事業計画の目標達成度に関すること	B	利用希望者の受入れについて柔軟な調整を行い、サービス利用機会の確保に努めた。専門的支援に対するニーズは高いものの、人材確保や配置に係る収支のバランスを考慮する必要があった。	A	専門的支援等の利用希望者のニーズに対応できなかったが、利用者の利用時間のニーズに対しては、職員の日程調整を行い対応できている。
	33	収入確保及び経費節減への取組に関すること	B	様々な必要物資の価格高騰がみられたが、代用品を活用したりしながら、可能な限り経費節減に務めた。	A	必要物資の代用品の活用や、節電対策を引き続き実施している。

総合評価

	指定管理者		施設所管課	
	総合判定	良好	総合判定	良好
	〔努力した点・具体的な成果〕		〔評価すべき点〕	
総合評価	全体 転居や就職、進学等の移行に際しては、必要な情報提供や関係機関との連携を行い、利用者及び家族が安心して次の支援につながるができるよう、心掛けた。また、可能な限り個々の状況に応じた時間調整や運行ルートの見直しを行うなど、柔軟な対応に努めた。今後も利用者一人ひとりのニーズに応じた支援の充実を図るとともに、サービスの質の向上及び支援体制の強化を継続して取り組んでいく。 ①児童発達支援 親子行事の参加申込時に、きょうだいや家族の参加について相談できることを周知したことで、家族全体が参加しやすい体制と行事参加の促進に努めた。 ②放課後等デイサービス 長期休暇中の買い物体験や公共施設を利用した園外活動では、事前にそれぞれの場面に応じたルールやマナーを確認し、社会参加に必要な力を身につけられるよう支援した。 ③保育所等訪問支援 日程調整に関する課題が継続している。そのような中でも、担当職員間で役割を分担しながら訪問体制を整備し、支援の継続に努めた。		全体 転居や進学等の移行には、関係機関と連携して利用者の安心に努めた。また、時間調整や運行ルートの見直し等柔軟に対応し利用者のニーズに対応できた。 ①児童発達支援 親子行事にきょうだい・家族が参加できるよう努め、利用者のニーズに対応できた。 ②放課後等デイサービス 園外活動を通じてルールやマナーの社会参加に必要な力を身につけられるよう支援した。 ③保育所等訪問支援 担当職員間で役割を分担しながら訪問体制を整備し、支援の継続に努めた。	
	〔改善すべき点〕		〔改善指導すべき点〕	
	全体 専門的支援に対するニーズは引き続き高く、人材確保や職員配置、収支のバランスを踏まえながら、持続可能な支援体制の構築を進めていく必要性がある。 ①児童発達支援 利用児支援だけでなく、療育開始時などに不安を抱える保護者への継続的な支援の充実も求められる。多角的な視点を持って支援を提供できる職員の育成と専門性の向上が今後の課題である。 ②放課後等デイサービス 将来の自立を見据え、学校や家庭、関係機関との連携を深めながら、継続的な支援を行っていく必要がある。また、近年の気象状況を踏まえ、児童が安心して活動を行えるよう、十分な室内活動スペースの確保が課題である。 ③保育所等訪問支援 集団適応に向けた支援を行うためには、児童や保護者、訪問先施設との調整を含めた高い専門性が求められる。その専門性を維持・確保しながら、継続的な支援を提供できる体制づくりが課題である。		全体 理学療法士といった専門的支援に対するニーズに対応できる職員配置を検討すること。 ①児童発達支援 利用児支援だけでなく、保護者への継続的な支援もニーズがあるため、今後の対応について検討すること。 ②放課後等デイサービス 利用者が増加しており、各利用者のニーズに対応できるよう継続的な支援を引き続き行うこと。 ③保育所等訪問支援 高い専門性を維持・確保しながら、継続的な支援を提供できる体制づくりを今後も検討すること。	

●評価基準(評価項目)

評価	評 価 基 準
S	(優 良)協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容であり、管理運営や利用者サービス等の向上において十分な成果が確認できる。
A	(良 好)協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である
B	(課題含)協定書等の基準を遵守しているが、内容の一部に課題がある
C	(要改善)協定書等の基準が遵守されておらず、改善の必要な内容である

※協定書等とは、協定書、仕様書及び年度計画書等を指しま

●判定基準 (総合評価)

判定	判 定 基 準
優 良	すべてがA以上であり、Sが4割以上である
良 好	8割以上がA以上である
課題含	すべてB以上である
要改善	評価項目にCがふくまれている